

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	松 島 理 明
主査	教授	生 駒 一 憲	
副査	教授	佐々木 秀 直	
副査	教授	岩 崎 倫 政	
副査	教授	田 中 真 樹	

学 位 論 文 題 名

Studies on the comparison of different symptom assessment scales
for multiple system atrophy
(多系統萎縮症の症状評価スケールの比較検討に関する研究)

本論文では、多系統萎縮症(MSA)の重症度を UMSARS、SARA、Berg Balance Scale (BBS)、MSA-QoL、Scales for Outcomes in Parkinson's Disease-Autonomic questionnaire (SCOPA-AUT)の 5 つのスケールで評価し、比較検討した。BBS と SCOPA-AUT については信頼性も検討した。その結果、BBS は検者間・検者内で高い信頼性があり内的整合性も高いことが示された。SCOPA-AUT も高い内的整合性を有し、自律神経症状のスクリーニングに有用であることが示された。MSA 重症度評価スケールの変化は、6ヶ月間では UMSARS part 4 が、12ヶ月間では SARA が最大であった。UMSARS part 2 や BBS も大きな変化を示し、MSA の症状変化を鋭敏に反映すると考えられた。また MSA-P や発症早期群、若年発症群では進行が速いことも示された。各スケールを項目別に検討した結果では、手の巧緻運動や起立歩行に関わる項目が短期間で MSA の進行度評価に役立つと考えられた。

審査にあたり、副査の岩崎教授から対象患者の知的レベル等について確認があり、次いで副査の田中教授からは、論文題名と学位申請論文の整合性に関する助言と Pilot scale の項目の独立性等について質問があった。主査の生駒教授からは、Barthel index の評価等について、副査の佐々木教授から、Pilot scale の項目の妥当性についての質問があった。申請者はこれらの質問に対し自身の研究結果と文献を引用しつつ適切に回答した。

本研究の成果は、今後の MSA 診療に際しその症状評価方法の確立に寄与するものと考えられる。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。